

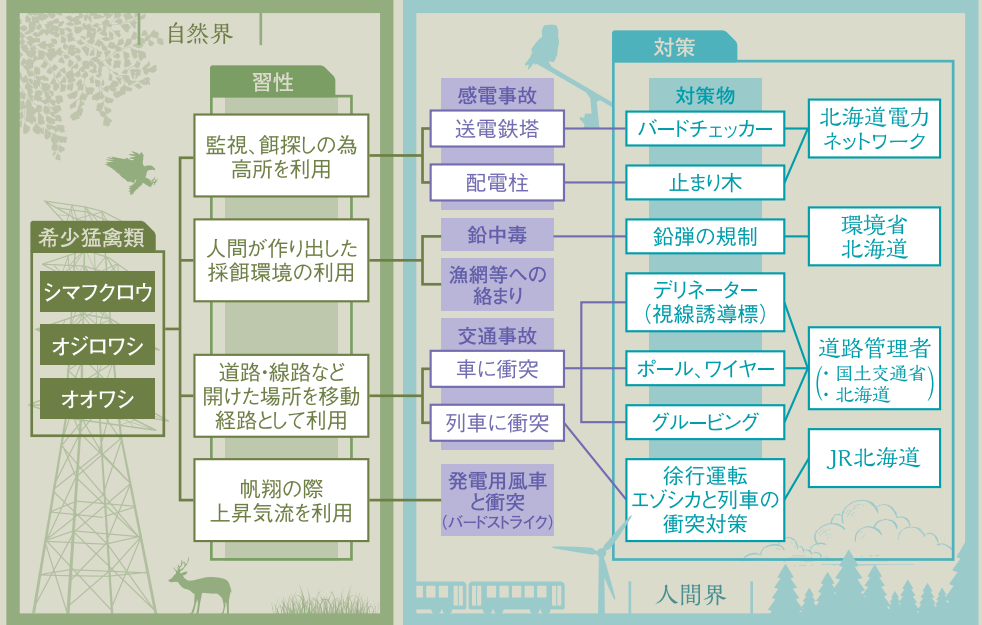


KUSHIRO  
Leading City  
in the Field of  
Environmental  
Treatment

©齊藤慶輔

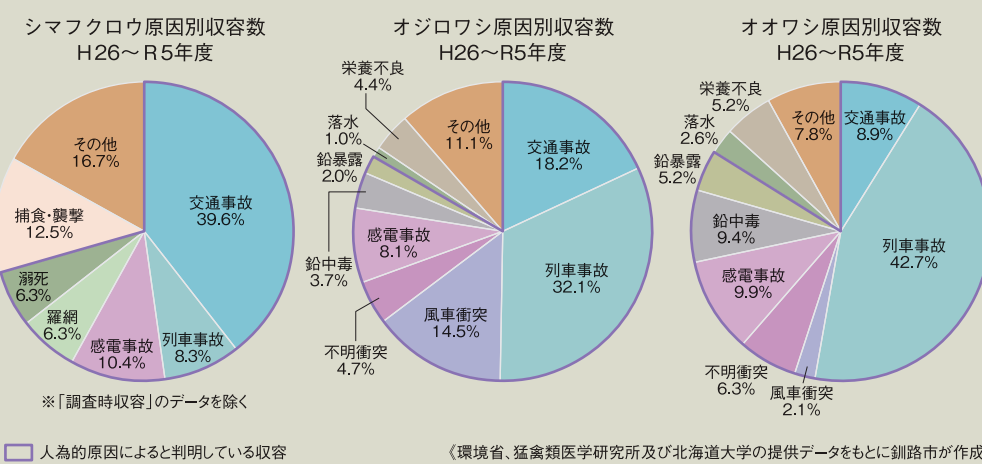
環境治療に必要な「野生動物」と「人間」の双方からの視点

野生動物の視点で見る人間活動と、人間の視点で見る野生動物との軌跡。  
二つの視点で原因分析と対策を検討していくことが必要です。



“人間ファーストでも動物ファーストでもなく、いかに共生していくか。人は人らしく、そして動物は動物らしく生きるといことが、目指すべき方向だと思っています。” (齊藤氏)

シマフクロウ、オジロワシ、オオワシの保護収容原因 (不明を除く)



釧路地域で導入されている環境治療

**感電対策物**

猛禽類医学研究所、北海道電力(株)、北海道電力ネットワーク(株)、環境省が連携し、希少猛禽類の感電死を防ぐためのバードチェッカー第一号機が釧路市内に設置されました。猛禽類がより止まりにくい形状への改良や送電施設の形状に合わせた開発が重ねられています。

写真提供 北海道電力ネットワーク、猛禽類医学研究所

**ロードキル対策物**

道東自動車道釧路西ICから釧路別保IC間では猛禽類医学研究所、国土交通省、環境省が連携しロードキルの対策の検討を行い対策後も効果検証と改良が行われました。

写真提供 釧路開発建設部

**対策物**

- バードチェッカー (北海道電力ネットワーク)
- 止まり木 (環境省 北海道)
- 鉛弾の規制 (環境省 北海道)
- デリネーター (視線誘導標) (道路管理者 (国土交通省) 北海道)
- ポール、ワイヤー (道路管理者 (国土交通省) 北海道)
- グルーピング (JR北海道)
- 徐行運転 エゾシカと列車の衝突対策 (JR北海道)

**ロードキル対策物**

ワシやタンチョウなどが道路をよく横断する場所では、橋の欄干などにポールやワイヤーを設置することで鳥の飛翔高度を高め、交通事故を防ぎます。

写真提供 釧路開発建設部

釧路市内の主な対策物が設置されている場所



環境治療  
先進都市  
釧路

KUSHIRO  
Leading City  
in the Field of  
Environmental  
Treatment



オジロワシ  
学名 *Haliaeetus albicilla*  
英名 White Tailed Eagle  
国内希少野生動物種、国の天然記念物、絶滅危惧Ⅰ類 (環境省「レッドリスト」2020)  
全長約90~120cm、翼開長200~245cm、大型のワシ  
海岸や湖沼周辺、河川流域の大木に営巣。海鳥類、スケトウダラ等の海産魚類を捕食。ヨーロッパ、西アジア、東アジアに分布。総個体数は約20,300~39,600羽と推定 (JUCN, 2013) 北海道と本州北部で越冬するオジロワシは約700~900羽。北海道の営巣地は90年代に入って増加傾向にあり、約70ヶ所が確認されている。

KUSHIRO Leading City in the Field of Environmental Treatment

著作・編集・発行  
釧路国際ウエットランドセンター、釧路市  
制作協力  
環境省釧路自然環境事務所  
国土交通省北海道開発局釧路開発建設部  
北海道電力(株)、北海道電力ネットワーク(株)  
北海道旅客鉄道(株)、猛禽類医学研究所  
発行 令和7年4月



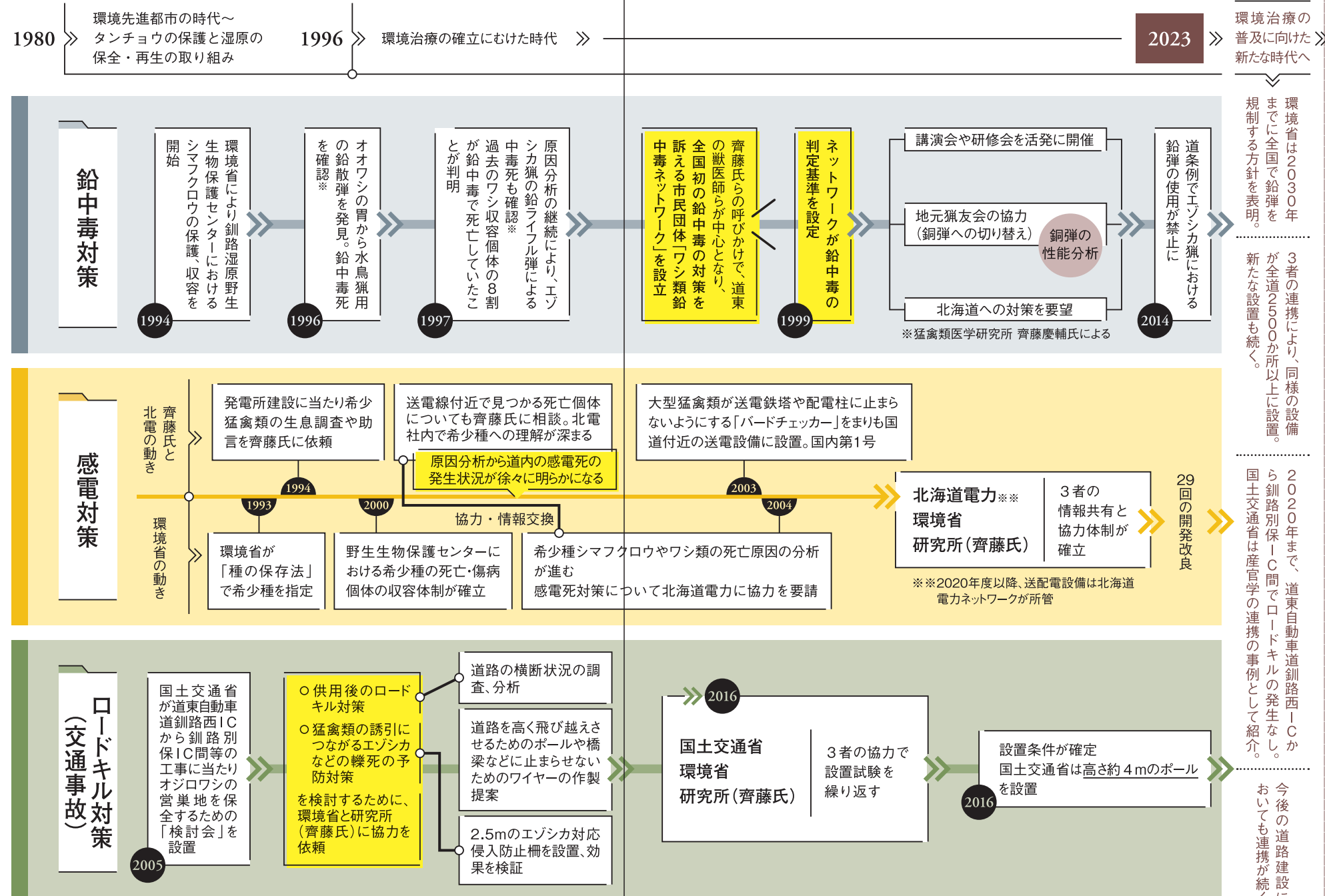
人間が傷つけたものは  
人間の責任において治したい

存在意義  
SAITO Keisuke

環境治療とは 人間と動物を育む自然環境を  
健全で安全なものに変えていくこと。  
Environmental Treatment Environmental improvement to restore a healthy environment

“野生動物のけがや病気、死亡原因には人間の経済活動が深く関わっている場合が多いです。希少野生動物との共生のためには、営巣地などの生息環境の保護だけでなく、死亡原因の究明を行って、野生動物との軋轢を解消していくことが必要なのです。”（齊藤氏）

釧路地域で始まった環境治療のあゆみ



of Environmental Treatment



環境治療の  
先進都市  
くしあ  
野生動物との共生に向けた新たなステージへ

「1980年」  
釧路湿原が日本初のラムサール条約登録湿地に登録  
「1987年」  
日本最大の湿原として釧路湿原国立公園が誕生  
「1993年」  
アジア初のラムサール条約締結国会議の開催  
絶滅の危機にあったタンチョウの保護から始まった湿原の保全活動により「KUSHIRO」は、アジアを牽引する「環境先進都市」となった  
経済活動と環境保全の両立が当たり前になってきた今、「環境治療の先進都市」として新たなステージに立っている

シマフクロウ | 学名 *Ketupa blakistoni blakistoni*  
英名 Blakiston's Fish Owl

国内希少野生動物植物種、国の天然記念物、絶滅危惧IA類（環境省レッドリスト2020）  
全長66～69cm、翼開長180cmに達する世界最大級のフクロウ類  
河川や湖沼周辺の森林（落葉広葉樹林、針広混交林）に生息。広葉樹大木の樹洞に営巣。魚類を主食とするが、両生類、甲殻類、鳥類、小型ほ乳類等も捕食  
国内では北海道及び北方領土に分布。北海道東部地域を中心に約100つがい確認されている。

裏表紙写真

KUSHIRO Leading City in the Field